

2016 年度に篠原隆介が法政大学経済学部で担当する講義のシラバスです。すべて多摩キャンパスで開講します。開講時間と教室は、時間割表で確認して下さい (2016 年 4 月 1 日)。

公共経済論 A(春学期 2 単位)

■【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 初級から中級レベルの公共経済論を通して，政府（中央，地方政府）と市場の関係について学習する．本講義では，市場の機能とその限界を整理した上で，市場の限界を補完するために政府が果たす役割について考察する．

■【到達目標】 需要と供給の理論，外部性，公共財の理論を理解すること，その理論を用いて，現実世界における民間部門と政府の間の役割分担について，自分の考えを説明することができるようになることが目標となる．

■【授業の進め方と方法】 まず，需要と供給の理論を学習し，市場の有効性について学習する．次に，外部性や公共財が存在する経済において，市場が失敗する原因と政府が施すことができる政策とその効果について学習する．講義ではミクロ経済学を用いるため，高校レベルの数学の知識は必要となるが，できるだけ図や例題を用いて直観的に説明することを心掛ける．

■【授業計画】

1. イントロダクション公共経済学とは？（市場の失敗と政府の役割）
2. 市場取引（需要と供給，市場均衡）
3. 市場取引（市場取引と経済厚生）
4. 生産者の行動と供給曲線（生産者にとって重要な費用概念）
5. 生産者の行動と供給曲線（生産者の行動の利潤最大化）
6. 消費者理論と需要（消費者の効用最大化問題と需要曲線）
7. 消費者理論応用（医療費補助制度の分析）
8. 外部性（市場と外部性について）
9. 外部性（外部性の私的解決：コースの定理）
10. 外部性（外部性の公的な解決：ピグー税，排出許可証取引）
11. 公共財（公共財の定義，公共財の最適供給）
12. 公共財（公共財の私的供給とただ乗り問題）
13. 公共財（リンダールの方法による公共財供給）
14. 公共財（リンダールの方法と虚偽申告）
15. 公共財（現実の公共財供給について）

■【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 講義はミクロ経済学をベースとして行われる．ミクロ経済学については，本講義でも復習を行うが，他の講義（現代経済学入門（基礎）やミクロ経済学など）で学習済みであると，本講義の理解は容易になる．また，財政学，経済政策論とも内容が密接に関わるため，これらの講義と同時に履修すると，理解は深まる．本講義の内容を理解する上で，日々の復習が必要不可欠であることを強調したい．受講生には，微分，極大極小の導出

について高校の文系数学程度の知識を持ち合わせていることを希望する。

■【テキスト（教科書）】 特に指定しない。自作の講義資料に基づいて、講義を進める。

■【参考書】 難易度が易しい順に参考書を以下に紹介します。

[1] 井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社，1998年

[2] 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社，2002年

[3] 麻生良文『公共経済学』有斐閣，1998年

[4] 板谷淳一，佐野博之『コアテキスト公共経済学』サイエンス社 2013年
本講義は，[2] と [3] の間のレベルで行います。

■【成績評価の方法と基準】 期末試験 (100 %) により成績評価を行う。

■【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】 理論の練習問題や，理論の現実への適用例を講義中に挙げ，理解しやすい講義にしたいと思います。

公共経済論 B(秋学期 2 単位)

■【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 公共経済論 A に引き続き、初から中級レベルの公共経済論を通して、政府（中央，地方政府）と市場の関係，投票制度を介した政策決定について学習する。

■【到達目標】 自然独占や情報の非対称性による市場の失敗について理解すること，これらの理論を用いて，我々の身近に存在する問題（例えば，民間保険会社があるにも関わらず，なぜ政府が健康保険を提供するのかなど）について評価，考察することができるようになることが目標となる。
【授業の進め方と方法】 まず，地方公共財に関する話題を学習する。その後，自然独占と情報の非対称性による市場の失敗について扱う。最後に，政策決定プロセスの経済学的分析について学習する。講義ではミクロ経済学的手法を用いるため，高校レベルの数学の知識は必要となるが，できるだけ図や例題を用いて直観的に説明することを心掛ける。

■【授業計画】

1. イントロダクション (公共経済論 B での学習内容の概要)
2. 地方公共財 (地方公共財と国家公共財，オーツの分権化定理)
3. 地方公共財 (オーツの分権化定理とスピルオーバー)
4. 地方公共財 (ティブーの分住定理)
5. 自然独占 (独占の発生要因)
6. 自然独占 (独占企業の理論，独占の弊害 (経済厚生分析))
7. 自然独占 (自然独占に対する規制：価格規制 (平均費用価格，限界費用価格規制)，インセンティブ規制)
8. 情報と市場取引 (医療サービス取引とモラル・ハザード)
9. 情報と市場取引 (医療サービス取引におけるモラルハザード緩和政策)
10. 情報と市場取引 (市場取引と逆淘汰)
11. 情報と市場取引 (市場取引における逆淘汰と配分効率性 (モデル分析))
12. 社会選択理論入門 (経済状態の評価の規範的基礎 (パレート効率性，衡平性))
13. 社会選択理論入門 (人々の意見集約方法としての投票制度)
14. 社会選択理論入門 (さまざまな投票制度とアローの定理)
15. 本講義の復習と総括 (復習と練習問題演習)

■【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 講義はミクロ経済学をベースとして行われる。公共経済論 A で学習したミクロ経済学の知識に基づき講義を行うので，公共経済論 A を履修するか，他の講義などで，ミクロ経済学を復習することを推奨する。また，本講義は，財政学や経済政策論などの講義とも密接に関わるので，これらの講義と同時に履修すると，理解が深まる。本講義の内容を理解する上で，日々の復習が必要不可欠であることを強調したい。受講生には，微

分、極大極小の導出について高校の文系数学程度の知識を持ち合わせていることを希望する。分からないことは、素直に担当教員に質問に来ること。

■【テキスト（教科書）】 特に指定しない。自作の講義資料に基づいて、講義を進める。

■【参考書】 難易度が易しい順に参考書を以下に紹介します。

[1] 井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社，1998 年

[2] 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社，2002 年

[3] 麻生良文『公共経済学』有斐閣，1998 年

[4] 板谷淳一，佐野博之『コアテキスト公共経済学』サイエンス社 2013 年

本講義は，[2] と [3] の間のレベルで行います。

■【成績評価の方法と基準】 期末試験（100 %）により成績判定を行う。

■【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】 難しい内容を扱うこともありますが，豊富な例題と練習問題を用いることにより，受講生諸君の理解を深められるように努力します

ミクロ経済学 A(春学期)

■【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本講義では、経済学の入門科目（現代経済学基礎（入門）など）で学習したミクロ経済学の基本的な知識を、より厳密な数学的な展開に基づいて理解することを狙いとする。数理的な手法を用いた経済分析は、経済政策・制度の設計、経済問題の発生原因の検証などで大きな役割を果たす一方で、数学を用いるが故に学生諸君には敬遠される傾向にあるように思われる。本講義では、消費者行動、企業行動の理論をより厳密に理解することも狙いの一つではあるが、数理モデル分析への導入講義としても位置付け、学生諸君が数学を用いることに慣れること、ミクロ経済学の応用分野である産業組織論、公共経済学、国際経済学等を学習する上で必要となる基本的な思考過程・概念についても理解することも目的とする。

■【到達目標】 需要と供給の理論を理解すること。また、これらを応用して、現実の経済問題、経済政策を評価分析する力を身に付けること。

■【授業の進め方と方法】 教科書と講義資料に基づいて講義を進める。

■【授業計画】

1. イントロダクション（ミクロ経済学を学ぶにあたって）
2. ミクロ経済学を学ぶ上で必要な数学の紹介（関数、連続性、微分、偏微分、全微分、極大と極小、一階の条件、二階の条件）
3. 消費者の行動(1)（人間の消費に対する「好み」の表し方：効用関数と無差別曲線）
4. 消費者の行動(2)（人間の消費行動に影響を与える「主観的」な財の交換基準：限界代替率）
5. 消費者の行動(3)（人間の消費行動に影響を与える「客観的」な財の交換基準：予算制約と価格の比）
6. 消費者の行動(4)（主観基準と客観基準を天秤にかけた消費者の行動：効用最大化問題と需要関数）
7. 消費者の行動(5)（所得の変化が消費行動に与える影響：正常財と劣等財）
8. 消費者の行動(6)（価格の変化が消費行動に与える影響：スルツキー分解）
9. 企業の行動(1)（企業の持つ生産技術と生産能力：生産関数、限界生産性、技術的限界代替率）
10. 企業の行動(2)（企業の利潤最大化行動）
11. 企業の行動(3)（企業の費用最小化と利潤最大化）
12. 企業の行動(4)（企業の生産活動決定に重要な費用概念：限界費用、平均費用）
13. 企業の行動(5)（企業の利潤最大化行動と損益分岐点、操業停止点、供給関数）
14. 企業の行動(6)（短期の生産活動と長期の生産活動）
15. 春学期復習（練習問題演習）

■【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 講義の前後で、教科書・参考書を読んだり練習問題を解いたりして、反復学習すること。ミクロ経済学は、他の学問と同様、「積み重ね」の学問であり、何かを理解するためには、それ以前に学習した事柄を理解する必要がある。したがって、疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。参考書に『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』を挙げておく。講義を予習・復習する上で、講義指定の教科書を読むことも重要であるが、それに加えて、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』の該当部分も読むことを薦める。この本は、難しい数学を使うことなくミクロ経済学の基本概念について平易に解説している。数学に苦手意識を持つ学生には有効な学習道具となるであろう。

■【テキスト（教科書）】 多和田真『コア・テキスト ミクロ経済学』新世社，2005年，2592円

■【参考書】 [0] N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編【第3版】』（訳者：足立英之 石川城太 小川英治 地主敏樹 中馬宏之 柳川隆），東洋経済新報社 2013年，4320円。

[1] 尾山大輔等『改訂版経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』日本評論社，2013年。

[2] 武隈慎一『演習ミクロ経済学』新世社，1994年，2592円。

■【成績評価の方法と基準】 期末試験（100％）により成績評価を行う。

■【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】 初担当のため、該当しない。

■【その他の重要事項】 高校数学レベルの「微分」，「極大・極小の求め方」の知識は、講義を理解する上で必要となるので、事前学習しておくこと。受講に際しては、1年次対象の経済学の入門科目で学習する程度のミクロ経済学の知識は前提とする。

ミクロ経済学 B(秋学期)

■【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 ミクロ経済学 A の後続科目である。ミクロ経済学 B では、完全競争下の市場取引の理論（部分均衡理論に加えて一般均衡理論も含む）と不完全競争下の市場取引の理論を学習することを目的とする。これらのテーマは、ミクロ経済学の応用分野（産業組織、公共経済学、国際経済学など）を理解する上で必要となるので、より厳密に体系的に理解することを目標とする。

■【到達目標】 完全競争と不完全競争における市場取引の理論を理解すること。また、これらを応用して、現実の経済問題、経済政策を評価分析する力を身に付けること。

■【授業の進め方と方法】 教科書と講義資料に基づいて講義を進める。

■【授業計画】

1. 市場の均衡 (1)(市場取引における買手と売手の行動：市場の需要関数と供給関数)
2. 市場の均衡 (2)(取引の「満足度」の測定：消費者余剰，生産者余剰)
3. 市場の均衡 (3)(市場でどのような取引が行われるのか：完全競争，市場均衡)
4. 市場の均衡 (4)(市場均衡が，市場取引の帰結を表現すると考えても良い理由：ワルラス的調整，マーシャル的調整)
5. 市場の均衡 (5)(市場取引の社会的な評価基準：社会的余剰と効率性)
6. 一般均衡 (1)(異なる財・サービスを取引する複数の市場間の相互依存関係：一般均衡)
7. 一般均衡 (2)(市場の取引を評価する基準：パレート最適性)
8. 一般均衡 (3)(完全競争がもたらす市場取引の望ましさ：厚生経済学の基本定理)
9. 不完全競争 (1)(競争が存在しない場合の市場取引：独占市場)
10. 不完全競争 (2)(競争が存在しないことの社会的なコスト：独占企業の利潤最大化と効率性の損失，独占度)
11. 不完全競争 (3)(競争が「緩い」場合の市場取引：クールノー寡占市場)
12. 不完全競争 (4)(クールノー寡占市場の分析：クールノー・ナッシュ均衡)
13. 不完全競争 (5)(寡占市場における先導者と追随者：シュタッケルベルグ競争)
14. 不完全競争 (6)(寡占市場における先導者と追随者：先手は得か?)
15. 応用分析 (競争のメリット・デメリット:簡素なモデルによる分析)

■【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 講義の前後で、教科書・参考書を読んだり練習問題を解いたりして、反復学習すること。ミクロ経済学は、他の学問と同様、「積み重ね」の学問であり、何かを理解するためには、それ以前に学習した事柄を理解する必要がある。したがって、疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。参考書に『マンキュー経済学 I ミクロ編』を挙げておく。講義を予習・復習する上で、講義指定の教科書を読むことも重要

であるが、それに加えて、『マンキュー経済学Ⅰマイクロ編』の該当部分も読むことを薦める。この本は、難しい数学を使うことなくマイクロ経済学の基本概念について平易に解説している。数学に苦手意識を持つ学生には有効な学習道具となるであろう。

■【テキスト（教科書）】 多和田真『コア・テキスト ミクロ経済学』新世社，2005年，2592円

■【参考書】 [0] N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰマイクロ編【第3版】』（訳者：足立英之 石川城太 小川英治 地主敏樹 中馬宏之 柳川隆），東洋経済新報社 2013年，4320円。

[1] 尾山大輔等『改訂版経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』日本評論社，2013年。

[2] 武隈慎一『演習マイクロ経済学』新世社，1994年，2592円。

■【成績評価の方法と基準】 期末試験（100％）により成績評価を行う。

■【学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき】 初担当のため，該当しない。

■【その他の重要事項】 高校数学レベルの「微分」，「極大・極小の求め方」の知識は，講義を理解する上で必要となるので，事前学習しておくこと。受講に際しては，1年次対象の経済学の入門科目で学習する程度のマイクロ経済学の知識は前提とする。

演習 (通年)

■【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】 本年度のテーマは、行動経済学、公共経済学、およびこの2つの研究領域のインタセクションです。行動経済学については、おもに行動ゲーム理論を学習します。公共経済学に関しては、経済制度設計など、政治経済学、公共政策に関連するものについて学習します。その後、行動ゲーム理論に基づいた、経済制度設計について考察していきます。

■【到達目標】 目標は、経済理論を正しく理解し、それをを用いて身近な問題を分析することができることです。興味のあるテーマを選び、そのテーマを考察するためには、どのような勉強が必要か、これを自分で考えることができる力を養ってもらいたいと思います。

■【授業の進め方と方法】 行動ゲーム理論、公共経済学のそれぞれに対して、1冊ずつ教科書を指定し、輪読します。その後、行動ゲーム理論に基づいた経済政策分析に関する学術論文を読んでいく予定です。文献の内容について報告者に報告をしてもらうとともに、理解度を深めるため、参加者全員で練習問題演習を行います。

■【授業計画】 各回、学生による報告と質疑応答が行われます。

■【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 報告者は、事前に文献を精読し、報告に備えること。文献の中に理解できないことがある場合には、何がどのように分からないのかを報告の際に説明することができるようになることが望ましい。復習も欠かさず。

■【テキスト (教科書)】

0) 岡田章『ゲーム理論・入門新版人間社会の理解のために』有斐閣, 2014年

1) 川越敏司『行動ゲーム理論入門』エヌティティ出版, 2010年.

2) 寺井公子, 肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣, 2015年

■【参考書】 適宜、次の参考書を参照することがあります。

[0] 岡田章, 加茂知幸, 三上和彦, 宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣, 2015年.

[1] 尾山大輔等『改訂版経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』日本評論社, 2013年.

[2] 梶井厚志, 松井彰彦『ミクロ経済学戦略的アプローチ』日本評論社, 2000年

[3] Nolan McCarty, Adam Meirowitz, Political Game Theory: An Introduction, Cambridge University Press, 2014.

■【成績評価の方法と基準】 平常点 (60%) とゼミでの報告・課題 (40%)

■【学生の意見 (授業改善アンケート等) からの気づき】 理論を学習した後に、その理論を使って分析することができる現実例を紹介し、分かり易く教えることを心がけます。

■その他 演習ホームページ http://ryusukeshinohara.ehoh.net/hosei_shinohara_zemi.htm